

水沢南小学校

児童数 655 人
所在地 奥州市水沢福吉町 3-24 学校HP▶
☎ 24-2470



水沢南小学校は昭和 31 年に創立され、今年 63 年目を迎えました。創立当時は、田園や山林、原野などが広がる閑散とした地域でしたが、その後、急激に新興住宅地として発展し、現在の街並みになっています。

また、南小では「南小三偉人」として、高野長英、後藤寿庵、木村榮について取り上げ、先人の偉業から学びを深めています。学区にある国立天文台では、



近所にある国立天文台を見学します

ブラックホールの存在を直接確認した研究が発表され、世界的な話題になりました。子どもたちは、総合的な学習の時間などで国立天文台を見学をしたり、「キラリ奥州天文台学習」で学んだりしながら、地域を活用した学習を進めています。

受け継がれる鼓笛隊

水沢南小学校では、昭和 33 年から鼓笛隊に取り組んできました。現在の 6 年生は、第 61 代鼓笛隊です。

学校通信

おいしく楽しい「収穫祭」

本年度も胆沢土地改良区の皆さんのご協力により、5 年生の稲作体験学習を進めることができました。5 月の田植えに始まり、稲刈りや脱穀を体験し、11 月には収穫祭を開催しました。収穫祭では、子どもたちがお米の品種やお米料理などを調べて発表した



地域の方に教わり餅つきに挑戦

ほか、みんなで餅つきも体験。つきあげたお餅で、お母さん方がきなこ餅とあんこ餅を作ってください、みんなでおいしく楽しいひとときを過ごしました。

運動会の入場行進をはじめ、国立天文台の銀河フェスタや、ふれあい南まつりなどに出演し、皆さんに演奏を届けています。



5・6年生の鼓笛隊引継式

11 月に入ってから、6 年生と 5 年生が組になり、練習をしてきました。6 年生は、演奏だけでなく、立ち居振る舞いやリーダーとしての心構えなども一生懸命教えます。11 月 28 日には引継式を行い、第 61 代鼓笛隊 6 年生から、第 62 代鼓笛隊 5 年生へと引き継がれました。

笹森神楽の継承

水沢南小学校神楽クラブは、郷土に古くから伝わる神楽を学び、郷土の文化を守り継承しています。笹森神楽保存会の皆さんのご指導が始まってから 14 年目となり、子どもたちは舞いを表現することの楽しさを味わいながら活動しています。

8 月の胆江神楽大会には、4～6 年生 16 人が出演しました。地域の方には「子どもが伝承してくれるのはうれしい」と、とても喜んでいただいています。

10 月の南小フェスティバルでは、地域で見守りをしている皆さんに、感謝の気持ちを込めてご披露することができました。



胆江地区神楽大会にも出演しました

南小リサイクル大作戦

4 年生は総合的な学習の時間に、自分たちでアルミ缶をリサイクルし、収益金で福祉施設に車いすを贈る計画を立てました。全校にアルミ缶回収を呼び掛けて



車いすなどをプレゼントしましたから 4 カ月。みんなの協力により見事に目標の 500 ㍻を達成し、寿水荘へ車いすを贈ることができました。施設では、曲の披露やメッセージカードも届けてきました。寿水荘のみなさんに喜んでいただきうれしさいっぱい、一段と成長した子どもたちでした。

いいとこ、知っとこ おうしゅう

地区センター単位で
各地区を紹介します



広瀬地区

拠点 広瀬地区センター（江刺広瀬
字柿ノ木 443-4 ☎ 36-2111）

都市と農村の交流



広瀬地区では、東京周辺在住の広瀬地区出身者で作る在京広瀬会との交流事業を続けており、2 年に一度の総会に合わせ、振興会役員や芸能団体を派遣し交流活動を行っています。地区内で生産された米やリンゴなどを PR し、芸能団体派遣は在京の皆さんが楽しみにしています。昨年は鹿踊が参加し、その迫力と勇壮な舞に感涙する姿が多く見られました。交流会が毎回盛会裏に行われ、人と人とのつながりが育まれています。

足しました。地域づくりの組織として、自由な発想と住民参加型の自治会活動が今日の広瀬地区を支えており、1 局 7 部が地区内 8 つの自治会と一体となり地域づくりを行っています。

地域づくり

平成 21 年に、元教員の河内山耕さんが立ち上げた里山生活学校は、「地域資源の利活用」をテーマにさまざまな活動をしています。中でも 9 月開催の「里山フェスタ」は一番大きなイベントで、9 回目を迎えた本年度は市内外から 400 人以上の参加者でにぎわいました。地域資源を利活用した生産者などが数多く出店し、森あそびやワークショップは子どもから大人まで楽しめると大好評でした。河内山さんは「来年度はさらに活動の場を広げて、新しい企画を」と目を輝かせました。



河内山耕さん（54）
－ 広瀬字松館 －

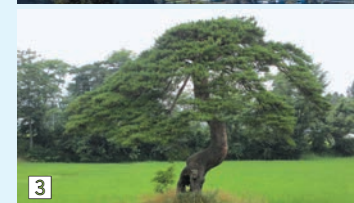
地域の名所

尻掛森（江刺小富士）

岩谷堂方面から工業団地を通り広瀬地区に入ると、右手に一段と高い山が見えます。別名「江刺小富士」とも呼ばれている尻掛森です。征夷大将軍・坂上田村麻呂がこの地を訪れ、この山の山頂から周囲を眺めたと伝わっています。山頂からは胆沢城から衣川方面までを一望できます。田村麻呂が腰かけた大石があったことから、この山を尻掛森と呼んだといわれていますが、残念ながらその大石は現在確認できません。

広瀬松（傘松）

初代仙台藩主・伊達政宗公がお手植えされ、五代藩主吉村公が広瀬松と命名されたと伝わる松です。岩手県下の名木調査で旧川崎村の笠松に次ぎ、第 2 位に挙げられました。



1 三ノ関から見た尻掛森 2 尻掛森の山頂から胆沢城跡を望む 3 夏の広瀬松